



平成29年5月17日(水)  
校長通心 No.5 校長 馬渡教三

### 「子どもの発見、教育の発見」(岸本智史)

勉強の勉の字の「ク」は女の人の頭、「口」はお尻を表している。真ん中が割れとる。ここに赤ちゃんが出てくるトンネルがある。ここから赤ちゃんが出てくる。君らはそのトンネルを力いっぱいぐい抜けてきたのだと言う。狭い狭いトンネルを全力を尽くして出てくる。そういう意味が「免」にはあるのだ。

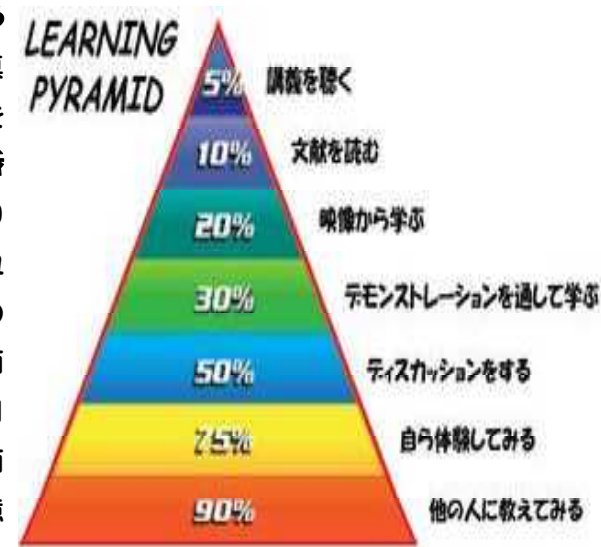
だから女の人は子どもを産むときは、あいつだけの力を出しているから「分娩」と書くだ。女偏に「免」と書くのだ。勉強の「勉」は苦しい中を必死に頑張って一人でぐい抜けてくる。字にはそういう意味があるんだと教える。そのうえに「力」という字がついている。りきむと言うことだ。力を入れるということだ。

「勉強」の「強」は強いるということだし、勉強というものは楽にはできんもんだ。赤ちゃんを産んだ後、お母さんは「ホッ」とする。あれと同じなんだ。勉強をやい終えた後はものすごくうれしくて、力がついたということですごく楽しいものだ。だから勉強を楽ちんにしようなんて思ったらあかん。こう始めにいておくんだ。ただし、3か月やったら君たちは普通の子に必ずなるんだと展望を与えておく。すると、落ちこぼれとみなされていた子が毎日生き生きと勉強し始める。…略…



## テストは学びの旅の道しるべ【一次考査に向かって『文車輪フル回転!!』】

『学習』という言葉があるけれど、「学」のくまなぶは、ま似るからきていて、「習」のくならうは、慣れるからきている。つまり、赤ちゃんが言葉を覚えるときに大人の言葉を真似て、それにだんだん慣れることで会話できるようになるのと同じ意味合いである。手本をまねて繰り返しながら慣れていくという意味を含んでいるのだ。また、**学習方法として一番効果のあるのが、「人に教える」**ことであり、右のラーニングピラミッドで見てわかるように90%も頭の中に記憶される。だから、本年度の湊中学校の学校目標にある「文武両輪とそれを支える絆シャフトを土台に『主体的・対話的に学び合おう』」に向かうということは、授業の中でグループやペアを組み、進んでコミュニケーションを図りながら教え合ったりする場面を増やすことで、教える方も、教えられる方も、向上していくというねらいがあるのだ。昨日は教育委員会から来た先生方がみんなの授業を参観してくださったけれど、教え合う場面がたくさんあったと感じている。みんなも、教え合ったり、学び合ったりすることが一番記憶として残るんだということ意識して授業に臨んでほしいと思う。



さて、第一次考査が近づいてきた。1年生は宿泊体験学習が、2年生は30キロウオークが終わり次第テスト週間に突入する。特に1年生にとっては、中学校に入学して初めての定期テストということで、目標の立て方、計画の作り方、テスト週間の取り組み方などなど…学ぶことが多いはずである。テストは今までの自分の学習がどこまで定着したかを確かめる一つの材料だと思う。だから、結果もさることながら、勉強するという苦しい中を一生懸命に努力(険しい山の頂上を目指して必死に登っていく感じかな?)して初めて充実感が得られるわけだから(左の「子どもの発見、教育の発見」) ○○君より何点多い…とか、合計点で何点少ない…とか、順位で「何番下がった」と言っではやる気をなくしたり…、「何番以内に入った」と安心したり……これらも大切なことかもしれないけれど、何かもっともっと大きく伸びていくところを見失わないようにしなければならないと思う。……もちろん、3年生の進路決定のための資料としては、どうしても点数にとらめっこしなければならぬのも現実だけれど……でも、本当は、テストとは全く個人的なもので、人と比べたり、順位を争うものじゃあないという考えだって成り立つと思う。自分の課題を見つけそして補い、次へつないでいくもの。自分が勉強して積み重ねてきたことが、どれくらい理解できていて身につけているのかを確かめるための手段といった見方も大切だと思う。

もし、テストが全くなくなったとする。「ラッキー」と喜ぶ反面、自分で勉強したことが、はたしてどれくらい自分に身につけているのか、自分の力が今どれくらいなのか分からなくて、目標を立てにくくなったり、不安になったりするような気がする。部活動にたとえれば、一生懸命練習したら、やっぱり試合をして、自分たちの力がどれくらいついているのかを確かめたくなるはずだ。一年間練習しっぱなしで全く試合がなかったら、きっと練習に身が入らなくなってしまうはずである。

例えば、数学で80点、国語で65点とったとする。とれなかった部分の間違い直しをしっかりとやり、自分のものにする。そして、数学のとれなかった20点、国語でとれなかった35点の失敗の原因はどこからきたのかを考える!!これが次に同じ失敗を繰り返さないポイントだし力をつけていくワンステップになる!!「授業はしっかり聞いていたのにうろ覚えのままテストに臨んでしまった!」とか「見直す時間が足りなかった!」とか「計画に無理があった!」とか…、**今までの勉強を振り払い、次のテストまでの努力が続く。そしてまた自分の課題をさがすためのテストがやってくる。間違っ、失敗して、考えて、試して、人は力をつけていく。自分より頑張っている人を見つけたらその頑張りを自分のふんばりにつなげていけ!!!**あせらず、うらやましがらず、仲間ができるんだから自分にもできるんだ、という前向きな姿勢で、やっぱり努力することである。**「テストは学びの旅の道しるべ」と覚えておくべし!!**とりあえず、**一次考査に向けて全校が「文車輪」(授業&家でのテスト勉強)をフル回転させるときだ!!**

